

日中かわぐち

No.52

2015年12月1日

ホームページ
www.k-jcfa.com
編集・制作 電腦倶楽部



川口市日本中国友好協会
川口市上青木1-20-3
TEL 048-253-2177
発行責任者 加藤展祐

雲南省は広大で日本国とほぼ同面積、緑の森林に恵まれており、南部西双版纳の低地



タイ族王家の植物園曼聽公園

本年の中国研修旅行は雲南省西双版纳、麗江、香格里拉（シャングリラ）六泊七日の行程でした。毎年のようにお世話になっている狭西国際旅行社の張天兵副社長にスルーガイドをお願いし、楽しい旅を経験してまいりました。

雲南省旅行記

加藤 展祐

十月十三日
朝食後ミャンマー国境に接する街、打洛鎮への観光。途中タイ族の仏教建築の傑作といわれる景真八角亭、さらに

十月十二日
民族風情豊かな街、カンラシハ風景区にあるタイ族園へ直行、少数民族の多い雲南でも特に緑、黄色、赤の衣装が印象的でした。昼食後、熱帯植物園見学。色とりどりの熱帯植物が咲き誇る植物園はまさに訪れる人の目を和ませてくれる所でした。

十月十一日
成田発、南京へ。そこで張天兵さんと合流。国内便に乗り換え、昆明経由で西双版纳へ、午前一時頃ホテル到着。

は亜熱帯性気候で、私たちの訪れた十月中旬は雨期の最後でした。一方、北部の香格里拉などの高山地帯は亜寒性気候で、南部・北部とも動物、植物の生態も多様のです。



普達措国家公園

帰途、ハニ族の茶農場（山の茶畑）を見学後、プーアル茶、皇帝茶の実演試飲を経験し、茶葉を購入しました。



独樹成林文化タイ村

独樹成林文化タイ村を見学。各所とも中国国内からの旅行者でにぎわい、特に文化タイ村では訓練された象の演技に魅了されていました。

十月十四日

千三百年の歴史を誇る旧タイ族王の植物園（曼聽公園）から野生の象が暮らす野象谷熱帯林風景区を観光。ロープウェイ（往復約一時間）に乗って運が良ければ野象が見られるはずでしたが残念なことに見られませんでした。それでも一時間の空中散歩と熱帯原生林の景色は見応えがあり、珍しい熱帯植物園、蛇園、クジャク園なども見学しました。午後九時三十分発の便で麗江へ。王子飯店泊、就寝は十二時頃になりました。

十月十五日

朝の一時間、短時間ではありましたが麗江古城の中を散策、専用バスで香格里拉へ約四、五時間の移動、途中現地での女性ガイド乗車（現地の人同行でないと見学不可）。

香格里拉到着後、壮大な普達措国家公园を見学、船に乗って、約4kmの散策を楽しみました。

十月十六日

専用車にてセツカ雪山、松贊林寺へ。セツカ雪山から遠く梅里雪山の雄大さを眺めラサに行かなくても標高三、三〇〇メートル位で体験できるチベット風情、ロープウェイからの眺めも素敵でした。

松贊林寺の建築もチベットのポタラ宮を髣髴させて見所がありました。夕刻、国内便で香格里拉から昆明経由で成都へ到着しました。

十月十七日

成都発九時の便で上海へ、十一時四十分着。空港で張天兵さんと小龍包で食事をし、



松贊林寺

名残を惜しみながら税関前でお別れをしました。張さん、七日間たいへんありがとうございました。午後九時三十分無事に成田着。

今回感じたことは中国大陸はやはり広大であるということです。

次に嬉しかったことは最終日、上海から成田までの機内の隣席に座られた麗江の女性医師、于小萍（ユイ・シャオピン）さんとの出会いでした。

ユイさんは日本を初めて訪れ、東京、富士山、名古屋、京都、奈良、大阪を観光旅行することはもちろん、日本の文化にもたいへん興味があると云っていました。私も拙い中国語の会話で筆談を交え、約三時間、時がたつのも忘れほど楽しく過ごさせていただきました。ユイさん、多謝多謝。

また何よりも同行者の皆さんが無事に帰り、素晴らしい旅を終了できたことにも感謝いたします。

第三十七期

入門Aクラス修了式

前田 稔夫

三月二十四日協会教室において第三十七期生の修了式が行われ、加藤理事長、本多教室代表、前田事務局長、内野副事務局長が出席、六名が修了しました。六名では次年度のクラスが成立しないので各自、都合のよい曜日にあわせ金曜クラス、木曜クラス、



37期生Aクラス修了式

水曜クラスの昼クラスに編入し、中国語の学習を継続しております。

飽きずに続けることが実力につながります。まだやっ

一年、我々教室には二十年以上の方も八十歳を超える方もいらつしやいます。中国一人旅も夢ではありません。がんばってください。

第三十七期
入門Bクラス修了式

前田 稔夫

三月二十七日栄町公民館において、第三十七期夜クラスの修了式が行われ、加藤理事長、本多教室代表、矢澤教室副代表、井上教室副代表、石井クラス幹事、川俣幹事補佐、前田事務局長、内野副事務局長が出席、十二名が修了しました。十二名全員が中国語の学習を継続し、初級Bクラスに進級しました。

日中友好協会の教室で、一年間の中国語学習を修了いたしました。我々の日中友好活動は、中国語教室も含めてすべてボランティアによって運営されています。一年を修了された皆さんは、これから

中国語学習を継続されながらとりあえず自分でできる日中友好活動を行い、川口市日本中国友好協会の発展と中国語教室の運営にご協力をお願いいたします。



37期生Bクラス修了式

第三十八期

入門Aクラス開講式

前田 稔夫

四月七日第三十八期入門Aクラス開講式が協会教室で行われました。今年度は夜の部（Bクラス）の応募が少なく開講できませんでしたが、Bクラス希望者も時間を調整し

て、昼の部（Aクラス）での受講となり、受講生十一名でスタートしました。



38期生Aクラス開講式

二〇一五年度の中国語教室のクラスは全部で九クラス、全受講生は九十六名でスタートしました。

川口市日本中国友好協会が開いている、留年のない会話教室です。存分に勉強をして、日中の友好活動にもぜひ参加してください。

楽しく中国語を学ぶ中国の友人を作り、官の日中交流が進まない現在、我々民の草根交流を發展させましょう。

たたら祭りについて

前田 稔夫

六月二〇日（土）、今年度第二回理事会が開かれ、協会運営協議の中で、たたら祭り協賛参加の活動を停止する議決をいたしました。

第一の理由、担当役員の高齢化。第二の理由、中国組の土曜日に餃子を包む人の減少。このため、講師、中国人会員らの協力を得て一週間ほど前から、包餃子の作業開始・冷凍庫のレンタルを使用して土曜日販売分の確保をし、日曜日は中国人研修生に三十名ほど参加していただいて二年ほど続けていただきましたが、第三の理由、運搬要員、雑作業員の不足などにより中止せざるを得なくなりました。

教室の皆様、協会の皆様にはたくさんのご協力をいただいていたしましたが、二〇一五年より中止いたしました。

長年のご協力ありがとうございました。

「いはいお」第三十七号

六月二十一日発行

市東 文字



今年が入門Bクラスの人数が集まらず、残念ながら入門Aクラスのみのお開講となりました。

した。

新受講生全員十名の方々が、中国語を学ぶ抱負などを愉快に書いてくださいました。

栗原前理事長は「二度とない人生だから、鳥たちのように国境のない世界を目指し、共存共栄の地球造りをしよう」という坂村真民の詩を寄せてくださいました。今こそ全世界の人々がこのことを理解して無意味な戦争をなくす努力をしてほしいと思います。

あるクラスでは校外学習として横浜中華街に足を運んだ時の楽しい思い出を多くの方々が文章に綴ってくれました。

他クラスからも旅行の感動話や失敗談、旅で出会った忘れられない友達、ペットの心温まる話、映画の楽しみ方などたくさんのお原稿をいただき、嬉しい編集作業でした。



画報に見る日中川口の一年間は「楽しい思い出写真館」です。特にたたら名物「餃子売り」も二〇一四年で最後となり、懐かしい写真集となりました。寂しい限りです。

寄稿してくださいました皆様と愛読者の皆様に、心からお礼申し上げます。

川口市技能実習生と

交流会を開催

林 芳男

七月五日（日）に川口の鑄物技能実習生との初めての交流会を開きました。

川口日中は中国語教室（受講生百名弱）や、川口市たたら祭りでの水餃子販売、今年三十年目になる小学生対象の親子教室・中国大使館訪問、法人会祭りでの親子中国語教室の開催、そしてスキップシティーでの中国映画鑑賞会、さらに県主催の中国語発表会への参加等、幅広く活動しています。しかし県下で一番多く中国の人達が住む川口でも、直接中国の人達と触れあう機会が少なく、交流会実現の機会はありませんでした。

今回「川口鑄物海研会」が受け入れている中国の鑄物技能実習生達との卓球交流会を初めて企画しました。

鑄物技能実習生は中国人が約五十名、出身地は山東省と

河南省出身者が断然多いようです。



第一回鑄物実習生との交流卓球大会

初めは提案を受け入れてもらえるか心配しましたが、幸いにも快く皆が受け入れてくれました。

海研会の食堂で卓球大会として、互いに十人ずつ選手を出してのトーナメント方式としました。お茶やジュースを飲んで、応援や互いに会話をするといい形です。参加者は川口日中が十六名、実習生が十四名の計三十名です。

実習生は、二十代後半から三十代前半の青年ばかり、川口日中は、六十代を超えた男

女混成メンバーのため、勝敗は抜きにして、無理せず怪我なく終わることを願っていました。

当日は生憎の雨となりましたが、食堂を交流会用に少量化粧直しをして、理事長挨拶自己紹介、大会のルール説明後、試合開始となりました。

試合は当然実習生の圧勝と思っていました。予想外の展開となり、ベストエイトに川口日中の男性二名が勝ち残りしましたが、皮肉にも川口日中同士の戦いとなり、最年長の理事が勝ち進みました。

次に勝てばよいよ一〜三位決定戦です。三回戦になると相手の実力も上がり、理事の体力も心配です。結果は健闘むなしく敗退となりましたが、見事な健闘振りに双方から盛大なる拍手が送られました。そして、予想通り一〜三位まで、実習生の独占となりました。

表彰式では実習生達が大きに盛り上がりました。最後に全員で記念写真を撮り、第一

回の交流会を和やかな雰囲気の中で、楽しく終了することができました。



卓球交流集合写真

交流会の後、すぐに次回ほどのように交流しようかという話が出たので、成果が実感でき嬉しい限りです。お互いに馴染み深い卓球ということスムーズに入り込めたと思います。

今回の反省点を踏まえて、「お互いの文化、風習を尊重する」という「草の根交流」の精神を守りながら、今後長く交流を続けていきたいと思っています。

第三十回川口親子教室 「中国大使館訪問」

林 芳男

今年で三十回目を迎えた川口日中主催の「親子教室中国大使館訪問」もいよいよ二巡目の学校も出てきました。今年には飯仲小学校でしたが、二〇〇四年にも大使館を訪問しております。



大使館訪問クイズ大会

もちろん学校関係で二度目を経験した人はいません。改

めて今まで継続してきた先輩方の努力に敬意を払いたいと思います。

七月二十九日(水)朝、飯仲小学校の生徒や父兄、先生方と校長、そして協会スタッフの総勢五十三名を乗せてバスは学校を出発、車中恒例の中国語教室を開催し、簡単な挨拶や日常会話を楽しく勉強しました。午前中、科学技術館を参観して、午後、大使館を訪問しました。

友好交流部の孫一等書記官や張担当書記官に迎えられ、まず大使館の庭や館内を見学した後、広い会議室に案内されました。今年には大使館の子供達が飯仲小学校の子供達に飲物のおもてなしをしてくれるという微笑ましい場面もありました。

交流会が始まり、初めに李伊寧国防部武官夫人、次に守屋校長の挨拶があり、それから中国の春節を紹介する短編映画を鑑賞後、飯仲小の子供達の沢山の質問の中から十問程度選んで、回答をいただき

ました。
「中華料理と中国料理の違いは？」

「大使館は、日本の休日と中国の休日の両方とも休みですか？」

などの笑いを誘うユニークな質問が続きました。質問の後は、回答をクイズに出すという形式でクイズが始まりました。皆一斉に手を挙げてクイズ大会は大いに盛り上がりました。

最後のクイズは「日本の国旗の色は？」

という問題で、今度は大使館の子供たちへのクイズとなりました。

クイズが終わってから、皆に記念品が配られ、その後、楽しみにしていた軽食タイムとなりました。「春巻」や、「肉まん」「すいか」などを

食べました。さすがに本場の料理は美味しいとあつという間になくなりました。

最後に加藤理事長よりお礼の挨拶と記念品の贈呈を行い、大使館の前で記念撮影を撮つ

た後「再見」と挨拶をしてバスに乗り込みました。



大使館訪問理事長挨拶

帰りのバスの中で今度は子供たちのフルネームを中国語読みにして愉快に盛り上がりました。

今回の訪問で友好交流部の皆さんの暖かい歓迎に感謝しています。

また今回の大使館訪問を機会に、未来ある子供達は心の中のような印象を残したでしょうか。十年後、さらに二十年後の彼らの成長が楽しみです。

第三十六回

「中国語発表のつどい」

に参加して

本多 路子

十月十八日（日）、埼玉県日中友好協会が主催する第三十六回「中国語発表のつどい」が浦和コミュニティセンター九階第十五会議室で午後一時より開催されました。

今年発表部門九、高校生部門二、大学生部門三、一般部門十、団体部門三と多くの出場者がありました。



県中国語発表のつどい会長挨拶

川口中国語教室からも受講生がたくさん応援に来て、会

場もにぎわいました。発表の水準は昨年より上回りました。原稿を読んで発表した人たちに、審査の先生からは暗記す



川口の杉浦さん全国大会へ

るなどもう少し努力がほしいという評がありました。

そんな中でも川口中国語教室からは出場者一名が受賞できました。

「私が中国語を学ぶいくつかの理由」を発表した西公民館火曜日夜クラスの杉浦契子さんは、中国大使館友好交流賞を受賞しました。

「中国の買物方法」を発表した栄町公民館水曜日夜クラスの新井聖矢さんは奨励賞を受賞しました。おめでとうござ

ございます。

もちろんお二人はしっかりと暗記されての発表でした。これからも中国語を続けて中国語教室を牽引してください。

後日、日中友好協会のテープ審査に杉浦さんが合格、全国大会に出場が決まりました。二〇一六年一月十日(日)に飯田橋の日中友好会館地下ホールで開かれる「全日本中国語スピーチコンテスト」には、川口から見学応援者多数の参加をお願いいたします。

「法人会ハザール市」

に今年も参加して

井上 不二子

今年も法人会祭り第七回ハザール市スキップ祭りが、十一月八日(日)に例年通り行われました。同時に、第七回税に関する絵ハガキコンクールも開催されました。

川口法人会第三支部の加藤展裕さん、つまり川口日中友好協会理事長のご厚意で、す

でに六回参加させていただいています。川口日中を市民の皆様幅広く知ってもらうためです。



あなたのお名前中国語で

昨年までは、こどもを対象に中国語教室を開きました。十一月はあちこちで秋まつりやイベントが多く行われているため、スキップシティーに来る人はそれほど多くありませんでした。子供を集めてくるのがいつもたいへんで、そこで今年は「親子中国語教室」に変更して盛り上げようとなりましたが、あいにく一日中雨模様で、来場者も少なく苦戦しましたが、午前と午後の二回、親子に集まってもらい、

楽しく行うことができました。



子供中国語教室

同時に「あなたの名前を中国語で発音してみよう」のコーナーもそれなりに集まり賑わいました。参加された市民の皆さまには、中国語のとは口に立っていただけただけではないでしょうか?これに興味を湧いて私達の同学になつてもらえたら、とてもやりがいがあります。

川口日中友好協会会長の奥の木市長からもエールをいただきました。

この活動の準備や当日、片付けに参加いただいた皆さまにお礼申し上げます。なお協

会の会員は年々高齢化してきています。当日協力していただける方が残念なことになかなか集まりません。来年はぜひとも多くの方が、協力していただけるよう、よろしくお願いいたします。

第十五回中国映画鑑賞会

「あの子を探して」

林 芳男

中国映画鑑賞会も十五回目となりました。毎年大使館訪問の際に映画をお借りしているのですが、今回はベネチア映画祭グランプリ作品で日本でも話題になったチャン・イーモウ監督の名作です。前回の「棋王和他的儿子」の評判が良かったので、同様のファミリー映画をお願いしました。ところが渡された二作品の一本が「棋王和……」でした。どこで行き違いがあったのか一瞬焦りましたが、もう一本が「一个都不能少」だったので、これなら「喜んでもら

える！」と直感しました。



あの子を探して

皆と相談して、上映作品を「二个都不能少」に決めました。ポスターはお借りしたDVDケースの表紙を拡大し作製しました。スキップシティーや公民館にポスターの掲示をお願いし、子供たちが主役なので、学校関係にもチケットを配りました。その後、スキップシティーや公民館でポスターを観たとチケットの依頼が続く「もしかしたらたくさん来てくれる？」と淡い期待も寄せてしまいました。

当日はスキップシティーの向かい、B街区でイベントがあり、科学館側やミュージアム側の地下駐車場、共に満車

で、駐車待ちの車がつながっている状態でした。係の人も「こんなことは初めて」と話していました。この状態では来場者がどうか？と不安になりました。



客席風景

会場準備のスタッフも集まり、理事長の挨拶の後、皆持ち場に着き準備を始めました。開場直前には入場待ちの人達が三十人ほど待っていました。いよいよ開場時間となったところで、やっと駐車場も動き始めました。協会員の人達が次々と入場して来ます。皆さん駐車には苦労したようです。五分前のブザーが鳴り、皆会場内に入りました。

最初は「白鳥湖の記録」という短編映画で、環境汚染

や密猟から白鳥を守るというドキュメンタリーです。駐車場の影響で映画が始まっても入場する人達がいました。短編映画の終了後休憩を取りました。それから理事長の挨拶がありました。



川口市日中の最近の足跡紹介

そして本編紹介の後、上映が始まりました。以前テレビで観た時に比べ、大画面で観るのは臨場感があり、後半は何度かこみあげるものがありました。無事上映が終わり皆にアンケートの記入をお願いしました。イベントにアクシデントはつきものと勝手に思っていたので、無事終わったことにホッとしました。

これも皆の協力の賜物です。

編集後記

各行事担当の方々、沢山の寄稿ありがとうございました。中国人の「爆買い」ニュースがあちこちで報道されましたが、キットカット、ステンスポトル、セラムミック包丁などがバラマキ用に大人気だそうです。

来場者の総計は百六十人でした。駐車場の込みようで残念ながら知り合いも帰ったそうです。感想は圧倒的に「良かった」「何度も泣いた」「子供達の自然な演技に感動した」と高い評価をいただきました。特筆すべきはチケットを送った中学生が十一名も来てくれたことです。「日中友好に協力したい」と何名かの人がアンケートに書いていました。映画に感動した皆の声と、日中友好に協力したいという声、そして日曜日に来てくれた中学生達に感謝して、来年さらに良い映画を探すつもりです。